

果たして大学は就職のために行くのか、という本質的な問題を含みつつも、現代日本社会において、就職は大学生とその家族にとって大きな関心事の一つです。したがって、就職活動がうまくいかないと、大きな悩みの種となりえます。ただ、「うまくいかない」というのは多くの場合、「理想通りにいかない」であり、ある意味では自己像を見直すチャンスでもあります。

様々な就職をめぐる相談

就職をめぐる相談で毎年よく聞くのは、「内定は出たが卒研が書けず卒業できないかもしれない」、というものです。理系大学で求められる卒業研究はレベルが高く、一方、日本は少子高齢社会のため慢性的な人手不足である、という現実が反映されているのかもしれません。

逆に、人手不足にもかかわらず、一般的な就職活動では全然内定をもらえないという場合には、意識的な努力ではどうしてもない障害特性が関わっている可能性もあるでしょう。

就職活動が始まる前から、理想的な就職をするための準備に心を奪われ、大学生活を楽しめなくなっているというような場合もあります。

せっかく大学に来たのだから学びを深めることに集中できた方がいいのに、と思うものの、これが現代日本の現実です。



その後の展開あれこれ

卒研が書けない場合、その要因は様々ですが、とにかく内定先の企業に待ってもらえるかどうか相談してみるのが先決でしょう。待ってもらえない場合、就職活動のやり直しになることもありますが、卒業後に大学に籍を残したまま就職活動に専念する「研究生」という制度もあります。

障害特性が関わっている可能性がある場合は学生相談室にご相談ください。卒後に就職を支援してくれる紹介先もあります。

就職が気になって学業や学生生活を存分に享受できない場合はもったいないですから、もう少し視野を広げるために学生相談室の心理相談をご利用いただくのも一手でしょう。